

そけいヘルニアセンターを 開設いたします【10月1日より開始】

荻窪病院
地域連携ニュース
10月



鼠径ヘルニア修復術
2023 年度 216 件

第2・第4木曜の午後に
専門外来を設置

傷の小さな
単孔式腹腔鏡手術を積極的に行っています

そけいヘルニア(いわゆる脱腸)は、消化器外科手術において最も手術件数の多い疾患であり、日本では年間約15万件の手術が行われています。

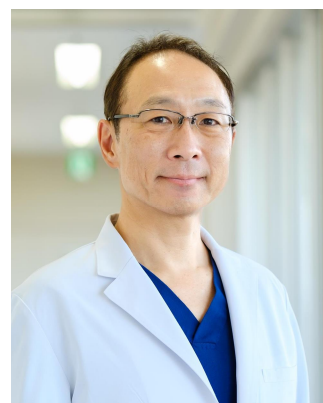
当院での手術件数は例年150件前後でしたが、2023年4月に単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術を導入して以来、手術件数が増加し、現在では月20件前後(2023年度実績216件)となっており、より専門的な対応が必要と考えました。

そのため、より多くの患者さんやクリニックの先生方へ安心して気軽にご相談いただける環境を整え、さらには専門的な治療を提供できる環境を提供するためにそけいヘルニアセンターを開設させていただくこととなりました。

当院でのそけいヘルニア治療の特徴は、安全・確実な手術をより侵襲を少なく行うために、傷を小さく、少なくする工夫をしていることです。その代表的な手術が、「単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術」です。

そけいヘルニアに対する腹腔鏡手術には、TAPP、TEP、LPECなどがあります(次ページにて解説)。それぞれの術式に利点欠点がありますので、患者さんの状態にあわせ適切な術式を選択致します。

そけいヘルニアセンター開設に伴い、2024年10月より第2・4木曜日の午後に完全予約制の専門外来を開始いたします。この専門外来は、日本ヘルニア学会評議員、日本内視鏡外科学会技術認定医、単孔式内視鏡手術研究会世話人である亀山哲章が担当いたしますので、よろしくお願いいたします。



●そけいヘルニアセンター長/外科部長

亀山 哲章

かめやま のりあき

そけいヘルニアセンター外来
第2・4木曜午後

ご予約は
地域連携室
03-3399-0257 まで

当そけいヘルニアセンターの術式について

腹腔鏡手術・鼠径部切開法のうち、患者さんにとって最適な手術を外来診察時に判断させていただいております。ここでは、腹腔鏡手術の3つの術式についてご説明いたします。

腹腔鏡手術

以下の3つが代表的な術式であり、いずれの術式においても基本的には全身麻酔下に行われている。通常は3ポート（3カ所の傷）で行われているが、当院ではひとつの傷（1.5 cm程度）で行う単孔式腹腔鏡手術を施行している。LPECの場合は、通常は2ポート（2カ所の傷）であるが、当院では7mm程度のひとつの傷で行う単孔式腹腔鏡手術にて施行している。

TAPP (transabdominal preperitoneal repair)

腹腔内アプローチと言われる術式であり、腹腔内を気腹し観察できる利点があるが、腹膜切開して剥離し、メッシュを固定した後に腹膜縫合をする必要がある。長期的には腹壁癒痕ヘルニアを生じる可能性がある。

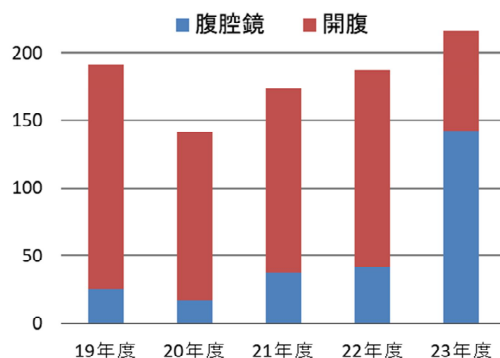
TEP (totally extraperitoneal repair)

腹膜外腔アプローチと言われる術式であり、腹膜と腹壁（筋肉）の間を剥離していきスペースを作成し、メッシュを固定する。腹腔内に入る必要がないため、腹腔内臓器を損傷することはなく、腹壁癒痕ヘルニアも起こらない利点があるが、腹膜外腔を剥離していく目標が乏しく、習熟に時間がかかる。またスペースが狭いため、大きな外そけいヘルニアは技術的に困難であることが多い。

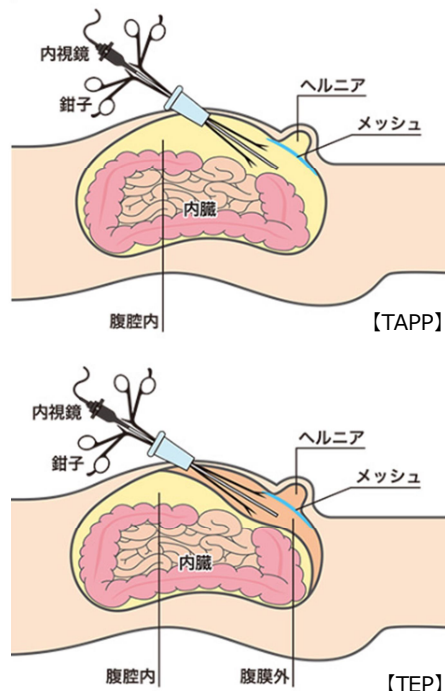
LPEC (laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure)

腹腔鏡で観察しながら行う内鼠径輪の縫縮術であり、小児のそけいヘルニアに対して開発された術式である。2010年代中頃より若年成人に対しても施行されるようになってきたメッシュを使用しない術式である。

緊急手術が必要な嵌頓ヘルニアにも、手術枠が許す限り対応しております。ぜひ、地域連携室までご相談ください。



【そけいヘルニア手術実績】 23年度の腹腔鏡手術は142件。うち133件を単孔式で行いました



Information

整形外科

膝関節疾患の受け入れを再開いたします

10月より、膝関節センターに着任の養田裕平医師による診療を開始いたします。ご紹介の程、お待ちしております。

ご紹介・ご相談は

荻窪病院 地域連携室

発行：2024年10月

月～金 8:30～18:30 土 8:30～12:00 TEL 03-3399-0257 FAX 03-3399-0258 〒167-0035 東京都杉並区今川 3-1-24